

2014 年植林作業報告

以下のように、植林作業を実施したことを報告します。

1. 植林作業実施概況

植林 実施日	春季	植林作業・・・・・・・・・・5月9日～12日、26～27日 (新規植林) 合計約 28ha
植林場所	モンゴル国セレンゲ県 アルタンボラグ村ゴロワンツァガントルゴイ周辺	
樹種	ヨーロッパアカマツ <i>Pinus sylvestris</i> (在来種) の2年生苗	
植林作業	アルタンツェツェグ (セレンゲ県ボゴントグループ) トウメンナサン (ボゴントノミン社技術員) ツォグトサイハン (GNC Mongolia スタッフ) 尾上 崇 (GNC Japan スタッフ) 小川 安里 (GNC Japan スタッフ) アルタンボラグ村及びボゴント村の村民など約 20 名他	

2. 植林作業本数概況

支援企業・団体名	2014年植林	
	予定本数	実績本数
「GNC共存の森」 株式会社KSGインターナショナル SOTO禅インターナショナル グリムプロジェクトチーム Just Smile!! 株式会社アルキューブ GNCJapan	33,100	33,100
約	13.24 ha	

3. 植林地の位置

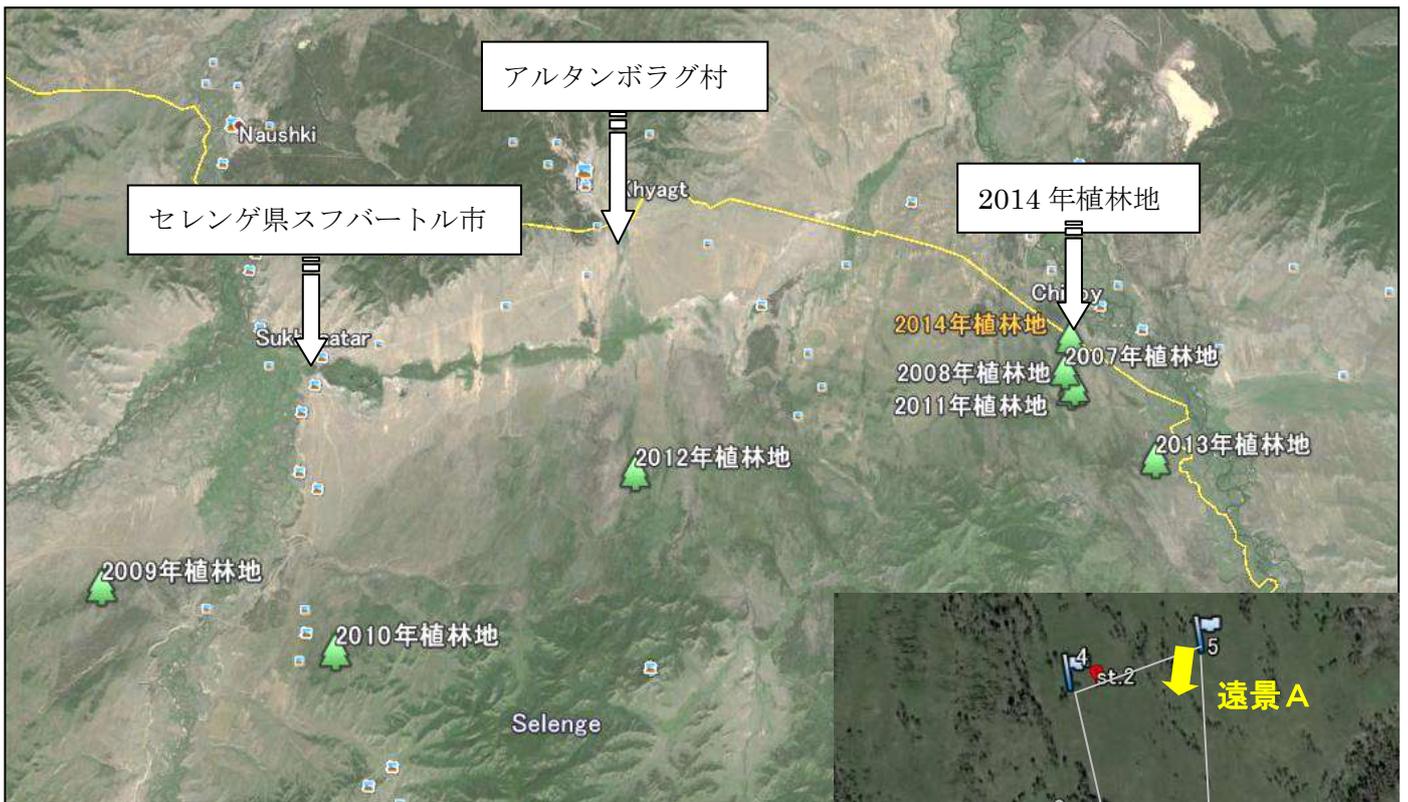


図 1. セレンゲ県北部 2014 年植林地位置図

2014 年植林地の GPS 捕捉状況

No	緯度	経度
1	50 13.6765	106 54.5413
2	50 13.7042	106 54.6408
3	50 13.6954	106 54.7121
4	50 13.8640	106 54.6393
5	50 13.9058	106 54.8170
6	50 13.4038	106 54.8644
7	50 13.3209	106 54.6586

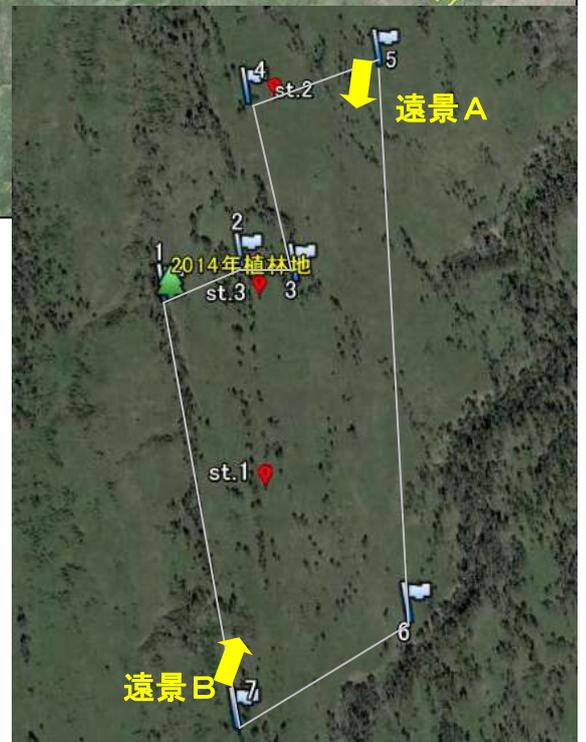


図 2. 2014 年植林地概略図及び調査地点

4. 2014 年植林の概況報告

4.1 植林時の状況

2014 植林地はアルタンボラグ村ゴロワンツァガントルゴイ周辺に位置する。ゴロワンツァガントルゴイ周辺では 1996 年の森林火災以降も度々森林火災の被害に遭っている場所である。ここ 3～4 年で火災対策が充実してきたこともあり、この場所にて本年から植林を始めた。

植林地では家畜の放牧は全く行われておらず、居住者もいないため、家畜の食害の危惧はないものと考えられる。

土壌は砂壤土で腐食が比較的少なく、植生はイネ科やキク科の下層植生が優先している。腐食層が 20～50 cm と少なくなって来ており速やかな植生回復が望まれる。右に植林時の状況写真を示す。

植林に用いた苗は、セレンゲ県ボゴント村の苗畑で育てられたアカマツ苗を使用し、苗畑での抜き取り後は根茎を泥で包むことにより、根の乾燥による植え付けリスクを軽減した。また植林場所での仮保存時は溝の中に置くことにより水分を維持した。植林の当日朝まで雪に覆われていたため土壌の水分は十分なため高い活着率が期待される。

春季植林において予定していた 28ha の植林が完了した。



写真 1. 苗の仮保存状況
(2014 年 5 月 9 日撮影)



写真 2. 植林前の溝掘り状況
(2014 年 5 月 9 日撮影)



写真 3. 遠景写真 A



写真 5. 苗木の状況 (2013 年 5 月 9 日撮影)



写真 4. 遠景写真 B



写真 6. 定点観測調査状況

4.2 植林時の状況写真



写真 7. 植林時の状況



写真 8. 植林時の状況



写真 9. 植林時の状況



写真 10. 植林時の状況



写真 11. 植林時の状況



写真 12. 植林時の状況

5. 定点観測調査

植林地内においてランダムに調査定点を3カ所設定し、次の項目について調査を実施した。定期的に同様の調査を実施し、植林地としての変遷を追跡していくこととする。

5.1 成長把握調査

苗木の成長を把握するため、各定点で5本の苗木を試料木とし樹高測定・写真撮影。定点 St. 1 での結果は以下の通りである。



5.2 モニタリング調査

各定点から4方向の撮影を実施し、植林地の概況を把握。定点 St. 1 での結果は以下の通りである。



6. 看板写真



植林地写真「GNC 共存の森」